

## 共同研究の目的と概要

### 1. 共同研究の背景と目的

大化改新に伴って古代難波が新宮の造営地として選ばれた背景には、難波津および外交施設の存在とともに、難波宮下層遺跡の存在も重要な要素であった。難波宮下層遺跡とは、5世紀から7世紀までの難波宮造営以前に存在した遺構群をさすが、その都市的な性格や内容は、難波宮造営の大きな前提となった。そこで本研究では、難波宮造営に伴って、難波宮下層遺跡が持つ都市の様相がいかに変容し、宮都空間へとつながっていったのかについて、最新の発掘成果や文献史料に基づきながら、そこに認められる特徴・特質を多面的に検討することを目的とする。なお、具体的な検討では、難波宮下層遺跡の存在がその後の宮殿造営のインフラとして重要な意味を持つことから、下層遺跡が含まれる年代だけでなく、その前後の時期を含めて検討する必要がある。本報告書では5編の論文を収録するが、これらはそのような見地から検討を行なったものである。

### 2. 研究期間

平成29年4月～平成31年3月まで。

### 3. 研究担当者

大阪歴史博物館：栄原永遠男（文献史学）、寺井誠（考古学）、村元健一（中国史学）、  
李陽浩（総括・建築史学）

大阪市文化財協会：積山洋（考古学：共同研究者）

### 4. 活動の概要

研究当初に掲げた各担当の研究テーマは以下の通りである。

栄原永遠男：前期難波宮造営の歴史的前提

寺井 誠：朝鮮半島系土器などの出土遺物を基にした、難波を舞台とした交流史

村元 健一：7世紀の難波宮とその他の宮城、都市域との比較研究－宮城と都市形態の成立過程を中心に－

李 陽浩：難波宮前後における建築的特質の解明

積山 洋：難波宮下層遺跡の国際的性格を、中国・朝鮮半島の動向の中で考える

上記テーマに即して、各自が適宜資料調査や発掘調査現場視察などを実施した。主な現地踏査としては甲賀市東山遺跡・宮町遺跡などがある。

また、最新の調査・研究成果を広く収集する必要から、都城制研究会と共同で研究会を開催した（年4回）。発表テーマ・講師は以下の通りである。

- ・2017年7月1日(土)
  - 報告1: 榮原 永遠男「岸俊男先生の古代宮都研究」
  - 報告2: 村元 健一「日本都城制源流論の現在」
- ・2017年9月16日(土)
  - 報告1: 豊田 裕章氏「阮諶「周室王城明堂宗廟図」と中国・日本の都城の構造について」
  - 報告2: 高橋 工氏「後期難波宮に関する最近の調査成果」
- ・2017年12月16日(土)
  - 報告1: 樋口 薫氏「発掘調査成果からみた由義寺・由義宮」
  - 報告2: 榮原 永遠男「『複都制』再考」
- ・2017年3月17日(土)
  - 報告1: 古川 匠氏「恭仁宮中央部の近年の調査成果」
  - 報告2: 市川 創氏「緑釉単彩陶器再論」
- ・2018年6月16日(土)
  - 報告1: 相原 嘉之氏「飛鳥寺西の歴史的変遷～近年の調査成果から～」
  - 報告2: 谷崎 仁美氏「七世紀後半の寺院造営とその背景についての一考察」
- ・2018年9月22日(土)
  - 報告1: 李 在桓氏「統一新羅時代の九州と五小京の都市構造検討」
  - 報告2: 李 陽浩「近年における慶州月城の遺跡調査ノート」
- ・2018年12月15日(土)
  - 報告1: 大澤 正吾氏「平城宮第一次大極殿院における幢旗遺構の発見」
  - 報告2: 小澤 毅氏「古代の測量技術—方位の測定と都城造営—」
- ・2019年3月16日(土)
  - 報告1: 中島 信親氏「長岡京の墨書土器～『長岡京墨書土器集成』の成果から」
  - 報告2: 李 陽浩「古代の築地塀と東アジア」

最後に、この期間中に発表された関連論考・調査報告、学会発表などを挙げておく。

(李陽浩)

## 【平成 29 年度】

### 【論考】

榮原永遠男編著『館長と学ぼう 大阪の新しい歴史 I』全  
283 ページ、東方出版、平成 29 年 7 月  
榮原永遠男共編著『東大寺の思想と文化（東大寺の新研究  
3）』全 328 ページ、法蔵館、平成 30 年 3 月  
榮原永遠男「『東大寺要録』の原構造」（『論集 古代東大寺

の世界—『東大寺要録』を読み直す—」ザ・グレートブッ  
ダ・シンポジウム論集第 14 号)、pp.7～36、平成 29 年  
11 月  
榮原永遠男「月借錢解に関する基礎的考察」（『正倉院紀要』  
40) pp.1～42、平成 30 年 3 月  
榮原永遠男「正倉院文書からみた奈良時代の悔過」（榮原  
永遠男・佐藤信・吉川真司『東大寺の思想と文化（東大寺

の新研究 3)』 pp.443～494、平成 30 年 3 月

積山洋「日本古代塩業技術の諸問題」『考古学・博物館学の風景』芙蓉書房出版、pp.397-408、平成 29 年 4 月

積山洋「コラム 難波宮」文化財保存全国協議会編『文化財保存 70 年の歴史－明日への文化遺産』新泉社、pp.185-187、平成 29 年 6 月

積山洋「私の古代学 古代難波の考古学研究史を振り返って (2)：難波宮の調査・研究史 (1)」『古代文化』第 69 巻第 3 号、古代学協会、pp.125-132、平成 29 年 12 月

積山洋「難波京と難波大道・大津道」『都城制研究』12、奈良女子大学古代学学術研究センター、pp.15-27、平成 30 年 2 月

積山洋「豊臣氏大坂城惣構南堀と真田出丸の再検討」『大阪文化財研究所 研究紀要』第 19 号、pp.23-40、平成 30 年 3 月

寺井誠『渡来人いずこより』大阪歴史博物館特別展展示解説 図録、平成 29 年 4 月

寺井誠「渡来系文物とその故地をもとめて－大阪歴史博物館 特別展『渡来人いずこより』の紹介を兼ねて－」『目の眼』No.488 株式会社目の眼、pp.80-85、平成 29 年 5 月

寺井誠「大阪細工谷遺跡の最近の調査成果」『季刊 韓国の考古学』2017 vol.37 周留城出版社 (韓国)、pp.22- 25、平成 29 年 9 月

寺井誠「近畿地方の百済・馬韓系土器」『日本の中の百済』忠清南道歴史文化研究院 (韓国)、平成 29 年 12 月

寺井誠「渡来文化の故地と受容の多様性－近畿地方と岡山の集落資料を基に－」『日韓交渉の考古学－古墳時代－ (最終報告書)』「日韓交渉の考古学－古墳時代－」研究会 (福岡大学)、平成 30 年 2 月

村元健一「佐川英治著『中国古代都城の設計と思想－円丘祭祀の歴史的展開』」書評『唐代史研究』第 20 号、pp.148-156、平成 29 年 8 月

李陽浩「前期難波宮にみられる建築的ネットワーク」栄原永遠男編『館長と学ぼう大阪の新しい歴史 I』、東方出版、pp.7-38、平成 29 年 7 月

#### 【学会発表・講座など】

栄原永遠男「奈良時代の難波宮」南河内シニア文化塾、すばるホール、平成 29 年 4 月

栄原永遠男「西京・北京・難波京」歴史講座「奈良時代を学ぼう！なぜ由義寺は建てられたのか」、八尾市歴史民俗資料館、平成 29 年 5 月

栄原永遠男「難波宮と複都制」大阪歴史博物館館長講演会 4、大阪歴史博物館、平成 29 年 6 月

栄原永遠男「岸俊男先生の古代宮都研究」都城制研究会、大阪歴史博物館、平成 29 年 7 月

栄原永遠男「聖武天皇と東大寺」枚方古代史友会、枚方市サンプラザ生涯学習市民センター、平成 29 年 7 月

栄原永遠男「教科書に載っていない難波宮の歴史」教員のための博物館の日、大阪歴史博物館、平成 29 年 8 月

栄原永遠男「道鏡と称徳女帝」大阪歴史博物館友の会、大阪歴史博物館、平成 29 年 8 月

栄原永遠男「奈良時代における東大寺の悔過」華嚴宗教学研修会、東大寺本坊、平成 29 年 9 月

栄原永遠男「聖武天皇と恭仁京」KCC 開設 60 周年記念講座日本古代史の散歩道、神戸新聞文化センター、平成 29 年 10 月

栄原永遠男「前期難波宮と大化改新」大阪市立大学経友会ホームカミングデー講演、大阪市立大学学術情報総合センター、平成 29 年 11 月

栄原永遠男「姿を現した難波宮」明治安田生命木曜会、大阪歴史博物館、平成 29 年 11 月

栄原永遠男「『複都制』再考」都城制研究会、大阪歴史博物館、平成 29 年 12 月

栄原永遠男「盧舎那大仏の鎮座」東大寺学講座、東大寺金鐘会館金鐘ホール、平成 30 年 1 月

栄原永遠男「聖武天皇と紫香楽宮」KCC 開設 60 周年記念講座日本古代史の散歩道 (後期)、神戸新聞文化センター、平成 30 年 2 月

栄原永遠男「請暇解・不參解の基礎的研究」正倉院文書の研究会、大阪市立大学、平成 30 年 3 月

積山洋「難波遷都の歴史を考える－古代から明治維新まで－」『7 月 28 日はなにわの日』講演会、平成 29 年 7 月

積山洋「中国の塩業」、第8回海洋考古学会（愛媛県弓削島）、平成29年9月

積山洋「大阪市の街角ミュージアムについて」、台日考古論壇『当代博物館の考古展示と教育』（台湾宜蘭県立蘭陽博物館）、平成29年9月

積山洋「大津道・丹比道と難波大道」、エリーニユネスコ第17回なにわ歴史シンポジウム 日本遺産・竹内街道と難波大道をめぐって（大阪歴博）、平成29年12月

積山洋「洛陽考古学踏査2016」、東アジア比較都城史研究会（龍谷大学）、平成30年1月

積山洋「住吉と水陸の道」、住吉文化事業実行委員会『古地図に見るすみよし』（住吉大社）、平成30年2月

積山洋「聖武天皇と後期難波宮」、大阪市立大学文化交流センター『平成29年度専門家講座』、平成30年2月

寺井誠「古代難波の対外交渉」、「7月28日は難波の日」講演会、平成29年7月

寺井誠「朝鮮半島系土器－製作技法から見た朝鮮半島と日本の土器の比較－」大阪府高齢者大学校、平成29年10月

寺井誠「長原遺跡と朝鮮半島」、なにわ歴博講座、平成30年3月

村元健一「日本都城制源流論の現在」、都城制研究会、平成29年7月

村元健一「南北朝時代の都城と陵墓」、東アジア比較都城史研究会、龍谷大学大宮学舎、平成29年7月

村元健一「中国都城と難波宮」、第29回かんだい明日香まほろば講座 飛鳥宮・藤原京と中国の都城、関西大学東京センター、平成30年1月

村元健一「難波宮のルーツを探して③ 北魏の洛陽」、なにわ歴博講座、平成30年2月

村元健一「中国都城の日本への影響について－『周礼』との関わりを中心に－」、世界に伝えたい「飛鳥・藤原」の魅力 東アジアの宮と都～周礼を中心に～、明治大学、平成30年3月

李陽浩「国庁・郡庁建築と前期難波宮」、第21回古代官衙・集落研究集会「地方官衙政庁域の変遷と特質」、奈良文化財研究所平城宮資料館、平成29年12月

李陽浩「古代の朝参と朝集堂」、なにわ歴博講座、平成30

年2月

李陽浩「難波宮と古代の大阪」、同志社女子大学講座、平成30年2月

## 【平成30年度】

### 【論考】

栄原永遠男「よみがえる東大寺」（東北歴史博物館・日本経済新聞社編『東大寺と東北－復興を支えた人々の祈り』）、pp.9-16、日本経済新聞社、平成30年4月

栄原永遠男編著『館長と学ぼう 大阪の新しい歴史Ⅱ』全265ページ、東方出版、平成30年7月

栄原永遠男「東大寺と横江荘」（『平安のドラマ・横江荘は語る－東大寺領横江荘遺跡立荘1200年記念シンポジウム－』）、pp.49-62、白山市教育委員会、平成30年10月

栄原永遠男「上山寺悔過所と吉祥悔過所」（『南都仏教』100）、pp.82-115、平成30年12月

編集『東大寺要録』一（『東大寺叢書』）法蔵館、平成30年12月

栄原永遠男「複都制」再考（『大阪歴史博物館研究紀要』17）、pp.25-40、平成31年3月

積山洋「私の古代学 古代難波の考古学研究史を振り返って（3）：難波宮の調査・研究史（2）」『古代文化』第70巻第1号、古代学協会、pp.126-133、平成30年6月

積山洋「日本古代王宮の原点 難波長柄豊碕宮」『歴史評論』821号、歴史科学協議会、pp.28-38、平成30年9月

積山洋「歴代遷宮と大和王権の拠点 難波」都市史学会編『日本都市史・建築史事典』丸善出版、平成30年11月

積山洋「貢納塩木簡の一試論」『構築と交流の文化史』雄山閣、pp.216-226、平成30年12月

寺井誠「甌からみた渡来人の故地」『考古学ジャーナル』No.711 ニュー・サイエンス社、pp.15-19、平成30年5月

寺井誠「各都道府県の動向 大阪府」『日本考古学年報』69（2016年度版）一般社団法人日本考古学協会、pp.250-256、平成30年5月

寺井誠「朝鮮半島と日本列島の鉄鐸」『一般社団法人日本考古学協会第84回総会研究発表要旨』一般社団法人日本考古学協会、pp.58-59、平成30年5月（口頭発表を含む）

寺井誠「白村江前後の九州・大和そして難波－搬入された新羅・百濟土器の検討から－」『館長と学ぼう 大阪の新しい歴史Ⅱ』東方出版、pp.41-70、平成30年7月

寺井誠「6～7世紀の北部九州の土器に見られる新羅・加耶的要素－特に平行文当て具痕跡について－」『第13回九州考古学会・嶺南考古学会合同考古学大会 海峡を通じた文化交流』九州考古学会・嶺南考古学会合同考古学会実行委員会、pp.270-285（韓国語翻訳含む）、平成30年8月（口頭発表を含む）

寺井誠『渡来文化の故地についての基礎的研究－新羅・加耶的要素を中心として－』平成28～30年度（独）日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書、大阪歴史博物館、平成31年3月

村元健一「複都制と古代難波」柴原永遠男編『館長と学ぼう大阪の新しい歴史Ⅱ』、東方出版、pp.71-102、平成30年7月

村元健一「北魏洛陽北邙墓群の構成と変遷」『東洋史研究』第77巻第3号、pp.79-111、平成30年12月

李陽浩「軒の出からみた前期難波宮内裏西門の屋根形式」『日本建築学会近畿支部研究報告集、計画系58』、pp.457-460、平成30年6月

李陽浩「大極殿と朝堂（院）」都市史学会編『日本都市史・建築史事典』（分担執筆）、丸善出版、pp.82-83、平成30年11月

李陽浩「国庁・郡庁建築と前期難波宮」奈良文化財研究所編『地方官衙政庁域の変遷と特質』、クバプロ、pp.133-143、平成30年12月

#### [学会発表・講座など]

柴原永遠男「古代難波の荘と物流－難波地域史の試み－」館長講演会5、大阪歴史博物館、平成30年6月

柴原永遠男「盧舎那大仏の再生（東大寺の成立過程7）」華嚴宗教学研修会、東大寺本坊、平成30年9月

柴原永遠男「東大寺と横江荘」平安のドラマ・横江荘は語る－立荘1200年記念シンポジウム基調報告、白山市民交流センター、平成30年10月

柴原永遠男「正倉院文書からみた和同開珎の流通」出土銭

貨研究会、古代銭に関する研究会、黒川古文化研究所、平成30年11月

柴原永遠男「月借銭のしくみ－古代の官営高利貸－」正倉院展講座、奈良国立博物館、平成30年11月

柴原永遠男「難波宮研究の最前線」京都高等学校社会科研究会、大阪歴史博物館、平成30年11月

柴原永遠男「行基と古代の大阪」第116回かいづか歴史文化セミナー、貝塚市民福祉センター、平成30年11月

柴原永遠男「仏教伝来と難波堀江」大阪歴史博物館友の会、大阪歴史博物館、平成30年12月

柴原永遠男「難波古代史の展望」住民大学講座、平野区画整理記念会館、平成31年3月

積山洋「古代の難波」、京都工業繊維大学マコーン会（ホテルプリムローズ大阪）、平成30年5月

積山洋「古墳時代の大阪－難波のはじまり－」、南大江地域活動協議会『南大江郷塾』（大阪市南大江会館）、平成30年7月

積山洋「飛鳥、奈良時代の大阪－なにわの宮－」、南大江地域活動協議会『南大江郷塾』（大阪市南大江会館）、平成30年8月

積山洋「難波京と葬地をめぐる予察」、東アジア比較都城史研究会国際公開シンポジウム『東アジアの古代都城と葬地・墓葬』（キャンパスプラザ京都）、平成30年9月

積山洋「前期難波宮の発掘の成果と課題」公開シンポジウム『今、難波宮から都城を考える』、明治大学、平成30年9月

積山洋「天武天皇の複都制と難波京」、檀原考古学研究所附属博物館・有史会『古代の輝き－日本考古学と檀考研80年の軌跡Ⅱ－大阪講演会』（阿倍野区民センター）、平成30年10月

積山洋「大阪は古代の国際都市」、大阪ユネスコ協会『大阪の始まりを知る連続講座 第2回』（パル法円坂）、平成30年11月

積山洋「古墳・飛鳥時代の難波－難波宮前史－」、平野区画整理記念会館『平成31年度住民大学講座』、平成31年1月

積山洋「大化改新と遷都－飛鳥から難波へ」、大阪自由大

- 学『新・大阪学事始「なにわ古代史」東アジアの中の難波宮』、平成31年2月
- 積山洋「副都の方針と再建－天武・聖武天皇の構想」、大阪自由大学『新・大阪学事始「なにわ古代史」東アジアの中の難波宮』、平成31年2月
- 積山洋「海路と陸路と古代難波」、大阪市立大学文化交流センター『平成30年度専門家講座』、平成31年2月
- 積山洋「『幻の宮』の発掘物語－山根徳太郎」、大阪自由大学『新・大阪学事始「なにわ古代史」東アジアの中の難波宮』、平成31年2月
- 寺井誠「白村江前後の九州・大和そして難波－搬入された新羅・百済土器の検討から－」、館長講座「館長と学ぼう 新しい大阪の歴史」、平成30年9月
- 寺井誠「難波と渡来人」住民大学講座 平野区画整理会館、平成31年2月
- 村元健一「前期・後期の難波宮を考える」シニアCITYカレッジ、大阪歴史博物館、平成30年5月
- 村元健一「西魏北周墓葬研究の諸課題」関西大学考古学研究室例会、関西大学、平成30年6月
- 村元健一「史料から見た隋使裴世清」おいな～れ塾、フローラルセンター、平成30年7月
- 村元健一「前期難波宮と中国宮城」公開シンポジウム『今、難波宮から都城を考える』、明治大学、平成30年9月
- 村元健一「8世紀以前の日本古代都城の変遷と中国都城」鄴与中世紀東亜都城制研究国際学会、中国人民大学、平成30年10月
- 村元健一「中国南北朝時代の陵寺について」佛教史学会、龍谷大学大宮学舎、平成30年12月
- 村元健一「漢から唐にかけての扁額」平城宮跡資料館、平成31年1月
- 村元健一「前期・後期の難波宮を考える」シニアCITYカレッジ、大阪歴史博物館、平成31年2月
- 村元健一「現地講義 難波宮跡と大阪歴史博物館」平成30年度 住民大学講座「難波の古代史」、大阪歴史博物館、平成31年2月
- 村元健一「三国魏の陵墓－大化薄葬令の源流－」、なにわ歴博講座、平成31年2月
- 村元健一「隋唐洛陽城の成立過程－恭仁京との比較のために－」条里制・古代都市研究会大会、平城宮跡資料館、平成31年3月
- 村元健一「近年の発掘調査から見た後漢の成立」関西アジア史談話会発足記念講演会 古代における「漢と倭」、大阪歴史博物館、平成31年3月
- 李陽浩「難波宮の築地塀をめぐる」、『なにわの日』講演会、平成30年7月
- 李陽浩「近年における慶州月城の発掘調査ノート」、都城制研究会、平成30年9月
- 李陽浩「後期難波宮の成立と展開」『連携公開講座「斎宮跡と難波宮」』、大阪歴史博物館、平成31年1月
- 李陽浩「前期難波宮と古代の宮殿建築」、住民大学講座「難波の古代史」、平野区画整理記念会館、平成31年2月
- 李陽浩「古代東アジア家形の世界：埴輪、土器、明器」、なにわ歴博講座、平成31年2月
- 李陽浩「古代の築地塀と東アジア」、都城制研究会、平成31年3月